



京都府丹後保健所HPバナー



# 新型インフルエンザ NEWS

毎月12日発行

～毎月12日(インフル)は、新型インフルエンザを考える日～

編集／発行 (京都府丹後広域振興局) **新型インフルエンザ対策ワーキング会議**

丹後保健所

検索

<事務局>

京都府丹後保健所(丹後広域振興局健康福祉部)  
保健室 感染症・難病担当  
〒627-8570 京丹後市峰山町丹波 855  
TEL.0772-62-4312 FAX.0772-62-4368  
www.pref.kyoto.jp/tango/ho-tango

## もくじ

- ・歌人・与謝野晶子の心情……………①
- ・スペインかぜから学ぶ(特集)其の二……………①②
- ・用語解説(発熱外来)……………②

### 歌人・与謝野晶子の心情

与謝野晶子は、夫・寛(鉄幹)の父・礼蔵が加悦(与謝野町)出身ということもあり、夫婦で度々丹後に足を運び、たくさんの短歌を残した丹後ゆかりの歌人です。

スペインかぜ流行時、与謝野晶子は、『横浜貿易新報』(現・神奈川新聞)の紙上で、政府の対応の鈍さに不満を語っています。

「大呉服店、学校、興行物、大工場、大展览会等、多くの人間の密集する場所の一時休業を(なぜ)命じなかったのせうか」

与謝野一家には11人の子どもがいましたが、1人が小学校で感染したのをきっかけに、家族全員が次々と倒れました。政府への不満は、子を持つ親として当然の心情だったのでしょうか。

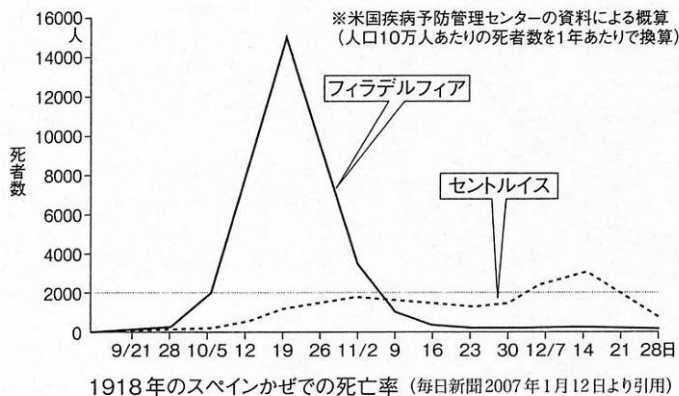


<引用文献>

「強毒性新型インフルエンザの脅威」 岡田晴恵

## スペインかぜから学ぶ (特集) 其の二

### ① セントルイス市長の英断 (外出制限の効果)



これに対して、市中発症率が10.8%になってからようやく規制が開始されたフィラデルフィアでは、8週間にわたって大流行が起これ、一度に多くの市民が発症したために、医療サービスや社会機能全般が破綻し、少なくとも1万5000人が死亡しました。

死亡率は、セントルイスの0.3%に対し、フィラデルフィアは倍以上の0.73%でした。

セントルイス市長は、経済活動などに影響するため、周囲から強いバッシングを受けましたが、「私は市民が死ぬことは望まない」と宣言し、制限を断行しました。

今でこそ、偉業とされるセントルイス市長の英断も、多くの困難の中での決断でした。

このセントルイスの事例は、今も米国の新型インフルエンザ対策の貴重な教訓として生きています。

<引用文献>「H5N1型ウイルス襲来 新型インフルエンザから家族を守れ！」 岡田晴恵

1918年のスペインかぜの際、米国で外出制限や大規模施設の閉鎖などを速やかに行った都市では、死亡率に差がでました。それはセントルイスとフィラデルフィア2つの都市の比較で明らかになりました。

セントルイスでは、市内に最初の死亡者が出るとすぐに緊急事態宣言を行い、学校や劇場、教会、大型販売店、娯楽施設などを閉鎖し、集会を禁止しました。市中発症率が2.2%時点の早期にこれらの英断をおこなったため、一時期に流行が集中せず、医療サービスや社会機能の破綻もおきませんでした。



協力した市民もすばらしいね!



ソナウレ君

## ② 択捉島の惨状

『北海タイムス』特派員報告から抜粋  
「死体を原野に運び山積して火葬す」(大正9年6月6日)

『百名余の村民枕をつらね、片端より死亡していく有様にて、…、亭主が死亡し、1時間後にその妻が逝き、子供が危篤という惨事を頻発し、村医も感染し行動の自由を失い、…。…看護人などの希望者なく、空しく親兄弟の死を傍観し…。患者はもちろん、患者ならざる者も早晩全滅を免れずと予期し、息のあるまに少しでも旨い食物を摂るのを得策なりとて…。』



このような状況を繰り返さないように、発生前の今こそ十分な備えを進めるときです。

## ③ サイトカイン・ストームの恐怖

スペインかぜでは、死亡者の多くが若者から中年層でした。当時は第一次世界大戦中で、戦線に出ない女性でも死者のピークは24歳から29歳でした。

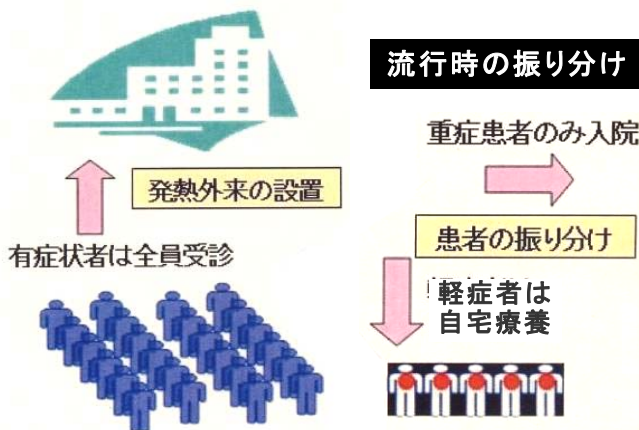
その原因が、**サイトカイン(炎症誘導物質)・ストーム(嵐)**で、免疫系の過剰反応が起こり、産生された大量の炎症誘導物質(サイトカイン)により肺などの臓器が機能不全になり死に至りました。当時の記録では、「血液を含んだ体液で肺が膨れあがり」と表現されています。

新型インフルエンザもスペインかぜ同様、免疫力の高い若年層に死者が多くなると予想されています。

<引用文献>

「新型インフルエンザ・クライシス」 外岡立人

## (用語解説) 発熱外来



新型インフルエンザが発生した状況で、新型インフルエンザ患者とそれ以外の一般患者の接触を最小限にし、感染拡大の防止と混乱を防ぐための機関として「**発熱外来**」が設置されます。発熱等の症状がある場合、全員が「発熱外来」を受診していただくこととなります。

「**発熱外来**」は、京都府内25ヶ所の医療機関(協力病院)の敷地内を中心に、設置される予定です。

発生初期では、「**発熱外来**」で新型インフルエンザと診断された場合、感染拡大防止のため専門の医療機関(協力病院)で全員の入院治療が行われます(入院勧告)。

また、流行時では、患者の症状により、「**発熱外来**」で入院治療の必要性を判断し、入院か自宅療養に振り分けされます。

### 新型インフルエンザウイルスキャラクター

丹後保健所では、新型インフルエンザ対策を効果的に進めるため、ウイルスキャラクターを考案しました。

デザインは、丹後広域振興局の女性職員が作成したもので、ウイルスの構造模式図を参考に、顔の波線は遺伝子を、周りの突起は表面のタンパク質をイメージしています。

今後は、NEWSの他啓発チラシやポスター、フェーズ別対応チラシなど、多くの啓発媒体での活用を予定しています。



次号

### 新型インフルエンザNEWS No.5

(平成20年10月12日発行)

- ・トピックス
- ・新型インフルエンザの医療対応
- ・用語解説(発熱相談センター)
- ・備蓄倶楽部の紹介

(訂正)No.2②の(用語解説)ワクチン  
プレパンデミックワクチンの実施時期  
実施予定(誤) → 検討予定(正)